

<研究成果の紹介>

硬質小麦「タマイズミ」の栽培法

農業研究部伊賀農業研究室

1. 成果の内容

「タマイズミ」は子実蛋白質含量が高く、醤油や中華麺用に適する硬質小麦です。「農林61号」より2～3日早生で、稈長が短く倒伏にやや強い特性がありますが、新しい品種であるため栽培特性は十分に把握できていません。そこで、実需者から要望される高蛋白質なタマイズミを生産するための栽培法について検討しました。

収量が安定して高く、外観品質も良好となる播種適期は、伊賀地域では10月末～11月上旬、伊勢平坦地域では11月上中旬です。

「農林61号」より茎数が少なく、穂数もやや少ないので、播種量はやや多めの0.9kg/aとし、条間25cm程度にドリル播種します。

収量、品質を安定して確保するには、「農林61号」より多い窒素0.7kg/a程度を基肥に施用し、穂数確保のため茎立期前（6葉期頃）に窒素0.2～0.4kg/a、止葉抽出始期に窒素0.2kg/a程度を追肥します。さらに子実蛋白質を高めるために穂揃期に実肥として窒素0.2～0.4kg/aを追肥します。高品質な「タマイズミ」を生産するためには穂揃期の実肥施用が不可欠です。

収量は穂数との相関が高く、子実重40kg/a以上を確保するためには、穂数は400本/m²以上必要です。「農林61号」より短稈であり、多肥条件でも倒伏の危険性は小さいですが、稈長90cm以上、穂数

480本/m²以上になると倒伏する場合があります。

2. 技術の適用効果と適用範囲

「タマイズミ」を細粒灰色低地土の水田輪換畑で作付けする場合の基本的な栽培法です。

3. 普及・利用上の問題点

「タマイズミ」の導入にあたっては、コムギ縞萎縮病の常発地への作付けは避け、十分な排水対策を実施して栽培してください。また、赤カビ病防除を徹底し、「農林61号」より穂発芽しやすいので適期収穫に努めてください。

(北野 順一)

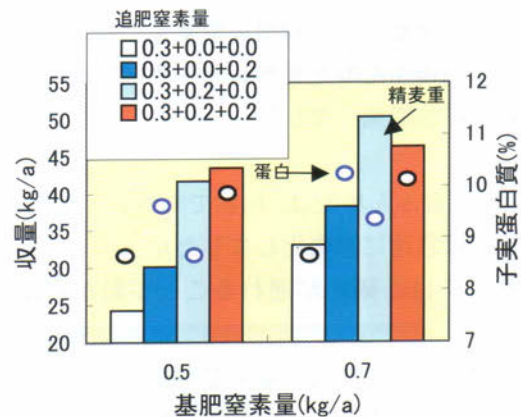


図1 施肥量と収量および子実蛋白質の関係
追肥時期:6葉期+止葉期+実肥

表1 「タマイズミ」と「農林61号」の播種期別の収量、品質の比較

品種	播種期	稈長 (cm)	収量 (kg/a)	穂数 (本/m ²)	1穂粒数	千粒重 (g)	外観品質	容積重 (g)	子実蛋白質(%)
タマイズミ	I	77.7	31.6	333	26.3	36.8	5.3	801	8.9
	II	71.9	28.2	306	24.7	36.5	5.7	823	9.2
	III	71.5	25.1	261	25.7	36.8	6.8	802	9.6
農林61号	I	81.6	30.9	407	21.1	37.3	4.3	777	7.6
	II	79.5	28.5	387	21.1	37.1	4.8	786	7.8
	III	78.0	28.0	324	21.1	38.8	4.8	781	8.2

試験場所:上野市 伊賀農業研究室
平成13年～15年の平均
播種期: I (10/30～31)、II (11/7～13)、III (11/22～29)
外観品質:1(上上)～9(下下)